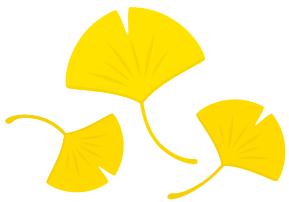


新古今

13 日	12 土	11 金	10 木	9 水	8 火	7 月	6 日	5 土	4 金	3 木	2 水	1 火	月
新暦・旧暦													新暦・旧暦
一白先勝 い	二黒赤口 いぬ	三碧太安 とり	四緑友引 さる	五黄先勝 ひつじ	六白赤口 うま	七赤太安 み	八白仏滅 たつ	九紫先負 う	一白友引 とう	二黒先勝 うし	三碧赤口 ね	四緑太安 い	
13 日 旧 11.3	12 土 旧 11.2	11 金 旧 11.1	10 木 旧 10.29	9 水 旧 10.28	8 火 旧 10.27	7 月 旧 10.26	6 日 旧 10.25	5 土 旧 10.24	4 金 旧 10.23	3 木 旧 10.22	2 水 旧 10.21	1 火 旧 10.20	

世界人権デー

新月

5日～
(三好市各所)
池田 冬のオブジェ

平成 27年12月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。早いもので、今年最後の月となり、どことも締め括りとして、仕事や歳時記も普段より慌しくなる時期。林鼓浪の頃も同じようだ、時代が変わつても日本の年末はそのままのよつただ。



写真：大麻町ジングルレベルマラソン大会

熊蟻穴
くまあなにこまる大雪
そひさまくふゆとなる
閉塞成冬橘始黄
たちばなはじめてきばむ

季節の風物詩



さし絵：林鼓浪、12月の風景

思い出す。祭神は天田の神といつて、本県では名西郡高志村に鎮座する。この由来を聞くと源三位公政が紫震殿で又工退治をした時、一度に御灯しが消えたがたつたつだけ消えない金燈籠があつた。それはこの村の鎧物師があ

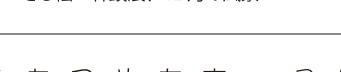
つて献上したものだといつて有名になり、阿波の鍛冶屋さんほどの神を崇め県下に分霊が各所にある。それでふじごを扱う家ではせに業を休み火の玉にかたどりみかんやひつを投げるので、子供はむしゅわに喜んで拾ったものである。

十一月の風習からいつと、まず廿三日が冬至、この日にいた水を一度お荒神に供えて、家の周囲にまくと火の用心になる。なすびがうをたくのも、防火のまじない。初なりの南瓜を食すると中風にかかりぬなど、いろいろ昔からの伝承がいまだに山村の俗信になつてゐる。

話は変わるが極月に入ると夜吟といつて、俳句に親しむ人たちが寺に最終の十日目にめいめいが食料を隠して持ち寄り、一つのナベに投げこむやミ汁の会がある。この催しには、むしたかぶいにしづをつけたフロ吹きの調味がきまつた献立だつた。現在忘年俳句会の席上でも、再興してよいと思つ。クリスマスもすんと相変わらず料亭では年忘れの宴会にお座付歌がはじまり街頭で餅つきの音の音をきかして師走気分を盛上げりせるのが、こよつと

昔

64年前の連載より



さし絵：林鼓浪、12月の風景

に有名になり、阿波の鍛冶屋さんほどの神を崇め県下に分霊が各所にある。

それでふじごを扱う家ではせに業を休み火の玉にかたどりみかんやひつを投げるので、子供はむしゅわに喜んで拾ったものである。

十一月の風習からいつと、まず廿三日が冬至、この日にいた水を一度お荒神に供えて、家の周囲にまくと火の用心になる。なすびがうをたくのも、防火のまじない。

初なりの南瓜を食すると中風にかかりぬなど、いろいろ昔からの伝承がいまだに山村の俗信になつてゐる。

話は変わるが極月に入ると夜吟といつて、俳句に親しむ人たちが寺に最終の十日目にめいめいが食料を隠して持ち寄り、一つのナベに投げこむやミ汁の会がある。この催しには、むしたかぶいにしづをつけたフロ吹きの調味がきまつた献立だつた。現在忘年俳句会の席上でも、再興してよいと思つ。クリスマスもすんと相変わらず料亭では年忘れの宴会にお座付歌がはじまり街頭で餅つきの音の音をきかして師走気

31 木	30 水	29 火	28 月	27 日	26 土	25 金	24 木	23 水	22 火	21 月	20 日	19 土	18 金	17 木	16 水	15 火	14 月
かのと 九紫先勝 み	かのえ 八白赤口 たつ	七赤太安 う	つちのと 六白仏滅 とら	つちのと 五黄先負 うし	ひのえ 四緑友引 ね	ひのえ 三碧先勝 い	きのえ 二黒赤口 いぬ	みずのと 一白大安 とり	みずのと 八白先負 さる	かのと 九紫仏滅 ひつじ	かのえ 七赤友引 うま	ちのと 六白先勝 み	ちのと 五黄赤口 たつ	ひのと 四緑大安 う	ひのえ 三碧仮滅 とう	きのと 二黒先負 うし	きのえ 一白友引 ね
旧 11.21	旧 11.20	旧 11.19	旧 11.18	旧 11.17	旧 11.16	旧 11.15	旧 11.14	旧 11.13	旧 11.12	旧 11.11	旧 11.10	旧 11.9	旧 11.8	旧 11.7	旧 11.6	旧 11.5	旧 11.4

年越し	官庁御用納め 三りんぽう	クリスマス	天皇誕生日	冬至	三りんぽう	年賀郵便特別扱始め
-----	-----------------	-------	-------	----	-------	-----------

31 日	除夜の鐘 (薬王寺など)	ジングルベルマラソン大会 (鳴門市大麻町) 灯りのオブジェ (神山町鬼籠野)	23 24・25日	ウツボグサ	さけのうおむつがる 鱧魚群	歳暮 タフ出回る
大晦日大祓い	御田納め	ナンテンの実色(ぐく なつかれくさじょうず 乃東生)	こぐま座流星群極大日	乃東生	さけのうおむつがる 鱧魚群	ふたご座流星群極大日

昔(ほど)ではないが12月に入る と、人や車の動きも慌ただしく感 じる時期で、ぼやぼやしている間 に気持ちだけ取り残されそうだ。 全国的に、旧暦の11月8日は、 ふいじ祭が開催される時期。林	今 師走の月	昭和26年12月 德島新聞連載 阿波歲時記 12月の巻より抜粋 著者：絵師郷士芸能研究家 林鼓浪（1888～1965）	送風する袋状の道風で、おもむいで 現在は、機械式で風を送っている と思われる。今でも鑄物業や鉄 工所などの関係者は、この時期に なると天目（てんめ）が祭られてる神社 の例大祭に参加してくるところ。 今年こそ余裕を持って過ごし たいと思うが、冬至・クリスマス、 除夕の鐘と振り返る間もなく、 新年になりそうだ。今年一年、ご朗 読ありがとうございました。	鼓浪は今回の記事のメインに取 り上げてますが、「ふたご」だ 存知だらうか。これは、作業時に 火力の勢いをつけるため空氣を
--	-----------	--	---	---



写真：大晦日、おせち料理と年越しそば